

令和元年度第4回^{もり}森林の未来を考える懇談会 発言要旨

- 1 開催日時 令和2年3月24日（火）13:30～15:30
- 2 開催場所 杉妻会館4階 牡丹
- 3 出席委員 7名
- 4 議 事

議題

- ア 令和元年度森林環境基金事業の実績見込について（報告）
- イ 令和2年度森林環境基金事業の概要について（報告）
- ウ 森林環境税を活用した取組に対する意見について（協議事項）

・議題ア、イについて

【事務局】

資料13、14により説明し委員の意見を求める。意見等は次のとおり。

【1 橋口委員】

- ① ふくしま植樹祭開催事業について、令和2年度予算が確定しているという認識で良いか。
- ② 令和2年度以降も地区を変えて、継続して実施してもらいたい。

【森林計画課長】

平成30年度、令和元年度は別予算にて開催、令和2年度は森林環境基金事業として予算化した。

【森林保全課長】

開催場所については、次年度に入ってから実行委員会を開いて決定する。地域に偏りがないよう配慮し、継続して実施していく。

【2 薄井委員】

- ① もりの案内人の会では、県民の森の森林館を利用して、森林環境教育に取り組むことが多いが、老朽化が目立つ。新しい施設の整備を検討することはできないか。
- ② もりの案内人の会で実施する森林環境教育に、森のはたらき下敷きを活用している。大変好評であり、次年度の作成もお願いしたい。

【森林保全課長】

公の3施設（昭和の森、県民の森、緑化センター）を点検し、順番をつけて修繕している。順次実施していくこととなる。

【森林計画課長】

令和2年度も森林環境税 PR ポスター、パンフレット、間伐材を活用した鉛筆等と合わせ、下敷きの作成にも取り組んでいく。

【3 丸委員】

- ① 令和2年度のふくしまの低炭素社会づくり推進事業の予算はなぜ減となっているのか。
- ② 学校林等での活動に対して、子どもたちを表彰するなど、やる気を持たせることが必要。
- ③ 低炭素社会のモデル地区をつくり、広げていく取組をすべき。

【森林計画主幹】

県産材のよさ等の PR が十分に発信されたことから、緑の住宅支援事業が終了したため減となった。

【森林計画課長】

決まった予算の中で7つの施策をバランス良く配分し、活動を実施している。

また、事業名として「ふくしまの低炭素社会づくり推進事業」という名前で目立ってはいるが、柱である「森林資源の活用による持続可能な社会づくり」という枠の中で様々な取組を実施している。

子どもたちへの表彰については、必ずしも森林環境税ではないが、林業祭で各種コンクールの表彰をしている。

モデル地区については、様々な事業において、方部ごとに代表的なところをピックアップする等している。

【4 目黒委員】

子ども里山教育支援事業において、子どもだけでは山に入っていくので、親への教育も大切である。よって「親子で取り組む」ことが必要。

【森林保全課長】

保護者も交えた事業構築をしていく。

・議題ウについて

【事務局】

事務局が資料 15 により説明し委員の意見を求める。意見等は次のとおり。

【1 目黒委員】

- ① 4 ページ 5 について～各学年に応じたプログラムの作成。学校林を活用し、「手入れ、育てる、使う」を実践する。教室だけではなく野外で実践する。
- ② アウトドアブームに便乗してワークショップと PR を行う。猪苗代湖のイベントなど。
- ③ 「桐の卒業証書」は森林環境交付金を活用して作成し、卒業生に渡した。好評。

【2 太田委員】

- ① 国道 4 号線の松川の辺りでイノシシを見た。中学校のすぐ近く。児童・生徒の命を守るためにもお金をかけて獣害対策に力を入れて欲しい。里山林整備事業で獣害対策もしっかりと実施して欲しい。
- ② 「花粉の少ない福島」を目指して取り組んで欲しい。モデル的に実施地域を限定してはどうか。
- ③ 県民一人一人ができること・アイデアを募集してはどうか。都市とのふれあい交流の中で、森林づくりをアピールし、実践していくことが必要。

【森林保全課長】

①の獣害対策は、野生鳥獣、農業、林業を担当する 3 つのセクションで連携して対応。森林林業サイドでは森林整備により緩衝帯の整備を進める。

【沼田座長】

通学路に獣害対策の重点を置くことはできるのか。

【森林保全課長】

里山林整備事業では、地域の要望などを汲み上げ対応できる。

【森林整備課長】

②の花粉症対策として、少花粉スギ苗木配布を平成 30 年度から実施。今後も少花粉スギの苗木を供給していく。植栽箇所は伐後に行うので、モデル的に地域を限定して行うのは難しい。

【沼田座長】

ふくしま植樹祭の苗木は少花粉スギにならないか。

【森林保全課長】

すでに、少花粉スギの苗木を使っている。

【農林企画課長】

各セクションが連携して。それぞれができることを地元の方と一緒に取り組んでいく。

【沼田座長】

「森林づくりの提言」を事業化していく中で、小学生だけではなく親子で学び、県民一人一人ができることの検討につなげていくことができるテキストを作成していただければどうか。

【3 薄井委員】

植樹祭でせっかく植えた苗をしっかり育てていくことが大切。育樹も考えて欲しい。

【森林保全課長】

2回目のふくしま植樹祭は「植樹」+「育樹」で実施した。

【4 橋口委員】

様々な取組があり相乗効果が期待できる。意見書の内容は問題ない。

- ① 森林資源造成支援事業、里山林整備事業など、良い事業はたくさんある。5カ年計画の中で、台風や獣害など、時代にあった緊急な課題に迅速に対応できるようにして欲しい。
- ② 各取組において、実施可能な数値目標を設定し、単年度ごとに見直ししながら優先順位をつけて実施して欲しい。しっかり評価しながらホームページなどでも発信することが大切。

【森林計画課長】

事業実績は4月以降に取りまとめる。次回の懇談会を開催するときには実績が取りまとまっている。

【5 星委員】

- ① 里山で重大な事故が発生する前に、住民の要望を取りまとめ里山林整備を実施して欲しい。
- ② 都市部から若者が流入するように環境に関心のある人を呼び込んで欲しい。

【事務局】

意見書の内容について、委員から了承いただいた。修文については、座長に一任し、確認することとさせていただく。